

大日子所信

神は外に在すべし、外に在すか故に我よりお迎へして我心に入れねはならぬ、た入れするには我心身を清浄無垢にして一点の曇なく私なく全く無我なるを要すべし、至心の結果人御ましまさは我身即ち其神なりと心得て然るべし



本紙一ヶ月分定額金... 大日新聞社

大日光放

教育勅語

四十年記念式

去る十月卅日校長の要請により一場の講演要旨如左... 教育勅語は小は一人の道徳より大は國家及國際に對する道徳の根本大道を明示したるものなり

全國佛教大會

本月二日より三日間福岡市にて第三回全國佛教大會が開かれた、大日子も宗教紙の故を以て列席の光榮を得たが、記すべき感想左の如しである

大會の一汚点

總會に入らんとするや名古屋市長某員より大會出席記念賞を今回より授與される様主催者に要望の建議案を語るや會場の一部より馬鹿野郎の罵詈雑言はれたるを觀する時、記者は世道人心の指導を双肩に負はんとして立てる此神聖なる沙門の集會に野蠻極まる言辭を併して同族を辱しめむとする徒あるを見て斯る前途亦遠なる會かなとの感を起せしが後或る再會より一同に對する希望も再び再會することなくして大會を終了せしが、此場面は免れ角大會に於ける一大汚點として遺憾事であつた

教化部の對議

一、貴國御寶像を掲載せし新聞取扱の粗末に涉らざる様の件

大日子所信

佛は内に在すべし、内に在すか故に我心次第で神佛、彌陀、觀音か鬼か蛇か氣隨氣儘に作るべし、作りし我子を大師とし清浄至心に信しなば、大師即ち我身にて作りし

矢吹慶輝師の講演

師は大本大學教授文學博士で頗る明快なる辯論を以て一時聞衆に驚異の大講演であつた其講演の大要は如左(貴四より記者にあり)

佛敎の眞の說法に決して迫寄を受けるものではない亦其論議は、夫は慈悲の大道を説くからである、野心がないからである此にこそ慈悲心に受け野心を包藏し報復を目的とするか如き事ありては眞の說法とは申されぬ。人と我とを一致せしめ人即ち我、我即ち人、社會全体が我、我即ち社會全体であるとの覺悟が出来て人を拜むことが出来て初めて無我の說法ができるのである。今の世の中は善人が余りに多過ぎる様に考へられる、例へば愛にコソツがある之を厭はれた人はコソツにコソツを置くからと先方を悪人にして自分が善人の爲めに持つて居る人は眼玉は何の爲めに持つて居るか先方を悪人にして自分が善人になる斯の如く社會が善人ばかりになる斯の如く社會が善人ばかり多過ぎて悪人がないから闘争が起る。夫れを厭はれた人が自分の不注意で思ひつた悪人になり、置いた方が置き所が悪かつたと思人になつてしまへば闘争の起る餘地はない、愛に集りたる方は善人ばかりで悪人は一人も無いと思したら定めし叱られることであらふ云々と坊主頭から法華を立らせてシタカ油をしめた

春振登山

春振山は佐賀縣の三大高山の第一にして蘇津の經岳に對し二十米の弟たれども、小城の天山には九米の兄分として登千五百五米の高標を有して居る、而も此絶頂に祭祀してある辨才天は日本三辨才天の第一として名高く又肥前境界の公事山として全國に響いて居る、其公事山のイキサツを知りて登山すれば境内四邊の鳥居、玉垣、石段等の破散の模様は今尚ほ穩かならざる勢前氣中にあることを痛感するに十分である、肥前側登山に歸せば南方有明海を眺望する千秋の恨事因り盡くべくもあるまじ、が併し現に敗訴に歸せし筑前側の恨事は地方女海の波濤を耳染にして福岡市街を眺下する時今尚ほ寸分の減退せざるべきを相像するに餘りあるものがある

温泉登山

拾月廿八日朝五時半長崎市福島屋の客室に目を覺まし、四方拜を済まして直に諏訪神社に詣で、皇宮の安泰と家内の安全を祈り、公園を一巡して「朝霧に蔽はれて街はわかぬども晴れわたるたる我心かな」で宿に歸れば伴の諸君は已に朝飯を済まして余の歸るを待つて居る。所用を済まして一路自動車に乘つて小濱町伊勢屋樓上の人となつたのが丁度正午である、湯より歸ると命するまゝの鮮魚は湯に落ちて居る、醒むれば三時直ちに又自動車に乘つて温泉ホテルの人となつた、一憩して縣社を参拜し彌陀堂の御殿に大吉を蒙りて各所を散策す、ゴルフ場を窺はる中央の森林伐り拂はれて一段の廣さを増し年を追ふて面目を新めつたを對して洋人にかわらぬと大和魂は紅葉こそすれ一時に八十五才の英國老紳士と食堂を共にす、一日の本の稜威は地に湧き出で、外國人も集ひ来る哉」と自負心を恣にした聖朝は雨しよほく遺恨極りなく、普賢登りを断念して更に小濱口津島原を経て多比良名産栗を風味し薄暮湯島につき神氣分をした、かたして老母に見へたのが午後九時であつた

台掌運動

今回の佛教大會出席者に配贈されたる別物の内に鹿児島縣萬町町の佛影師の御大典記念精神護符

放縱のもと

女權が政治に侵入して来たと思つて内に早軍隊内に女給を入れらる様な新聞が出た、女が男子の業務たる官公署諸事業に進出して對等の地位に近づけば必ず社會的に男女權力の一大闘争が行はれるであらふ、そして古人の難難の鳴かぬはむと云ふのが實現されるに至るではないか、可愛がればつけあがる飼犬に手を咬まれぬ用心が肝用である

宗像宮へ

縣社宮地神社は數十方間の費用を投じ御殿其他の建物新築成つて去る二十二日夜盛大に御遷座祭を執行せられたが其本社たる宮地神社より奉告使として洋見社家氏子總代安部清市、川崎喜三氏等向し午前十時祭典開始先づ入江禰宜の儀式、獻饗、幡掛宮司の祝詞奏上宮地神社の御幣高懸上、洋見奉告使の祝詞奏上に次で宮地神社より神樂、扇舞、鈴舞の奉納ありて洋見奉告使、幡掛宮司、宮地神社氏子總代、宗像神社氏子總代、來賓總代の順にて玉串拜禮あり引續き同社社宮地神社の大前にて奉告使執行し參籠殿に於て祝賀直會ありたるが郡内外の参列者多數にて盛況を極めた

佛敎大會

第三回全國佛教大會は總會部會に分ち會場を異にせるが社會部及兒童部は第二會場として九大佛教青年會館に於て開催され決議されたる諸案左の如し

九州沖繩司法保護

第四回を長崎市縣會議院内に於て去る十月十四日開催され、恒産會唐津支部よりは理事佐伯忠彦(本社員)出席した、本研究會は前科者は勿論刑罰に觸れる恐れの下に免因保護事業の廢止に伴ふて創設された事業で當日の出席者は各縣より三十六團體百四十餘名の外朝鮮總督府他其より多數の出席者あり來賓は石井控院院長、澤山貴院議員、林署長、富永市長、長官長崎地方裁判所長、外七十餘名頗る盛會であつた、會長の式辭左の如し

辭式

本日多數貴賓御臨席の光榮を荷ひ管内四十九の司法保護團體當局の諸君百四十餘名の御參集を以て茲に第四回九州沖繩司法保護事業研究會を開くを得たるは本會長の深く欣慶とする處にして斯業の爲洵に慶賀措く能はざる處なり

一、第一回全國佛教大會ニ決議シタル融和事業促進ノ件

一、府縣市會及町村會議員選舉ニ多數ノ僧侶立候補者ヲ擁立スルノ件

一、全國不良少年ノ感化保護ト少年ノ不良防止ヲ佛教徒ハ如何ニ處セントスルカ

一、社會教化事業ニ關スル講師派遣ニ佛敎部ト交渉アル據官廳ニ交渉スルノ件

一、行政上ノ差別待遇ヲ撤廢促進ノ件

大日子所信

神は人の敬信に依りて益々其威徳を顯はされ、人は其威徳を蒙りて益々福徳を授かるべし、故に如何に尊き神も衆人の敬信なければ空しく埋り給ふべし、例へば月に光あれども映するに水なきか如けん乎

め兼て外間幾多の衝動と誘惑とを避けしめざるべからず其多難にして事功の振はざるに故なきにあらず殊に本事業たる比較的最近の創設に係り今や漸く發達の道程に上れるに過ざるを以て其性質上當然國家と社會に於て根本的に其施設經營に向て心力を傾注すべきものたるに拘らず尙未だに

主人の眞似をなし弓を引いて見たところから矢は巻を巻いて、裏口の窓から外の方へ飛んで行つた。彼は驚いて矢のゆくへをさがし廻つたところ偶然にもその矢は遙に遠い田の畦にわたるに命中してゐた。意外の怪我の功名に喜んだ彼は、その獲物を捧歸り近所の人々を集めて雁の料理に舌鼓をうつたところからその翌日から件の雁が矢に中つて死んだ田の邊りに、配偶らしい一匹の雁が飛んで来て、さもしげに鳴きつづけるのであつた。そのうらむがやうな、訴へるがやうな、あはれな鳴聲を耳にする

ハテ 不審！ 若しや、と言葉をかけたやうとした新那。人の近づく氣配を覺つてか、パト、煙の如く、その體でやかな委は、掻き消へた。 それから、

「讀み物中毒症」に就て 阪東太郎 此は賣名の好者で、各その身の爲に奮動してゐるのだ。 就中、最近「友愛結婚」といふことを提唱したものがあつた。これはアメリカニズムの直輸入で、到底、日本の國情と相容れるべきものでないのは、火を賭るより瞭である。

禪學講習會 東松禪學講習會の名に於て大正十三年曾津曹河六禪師組合で年一回開會して開會されつゝある本會が一巡して更に第一回を満島寶昌寺に開か、講師は熊本の澤木興道師で大智禪師傳の講義である博學識識立板水の能幹である

眞宗皇帝日 家を富ますに良田を買ふことを用ひず、書中自ら千餘の粟あり居を安するに高堂を築するを用ひず、書中自ら黄金の屋あり門を出づるに人の踏ふなきを恨む莫かれ、書中車馬多きこと嫉む莫かれ、書中良妻なきを恨む莫かれ、書中女あり顔玉の如し、男兒平生の志を遂げんと欲せば、六經つとめて感前に向つて讀むべし

大日信條 不動經講義 正價金六十錢 九字護身法 正價金五十錢 般若經並略解 正價金三十錢 在家勤行集 正價金三十錢 朝夕勤行集 正價金二十五錢 日課要經集 正價金二十五錢 六座念佛式 正價金二十五錢 ぼこりたゝき 正價金二十五錢 掌中不動經 正價金二十錢 掌中般若經 正價金二十錢

大日新聞社 振替口座福岡五六〇〇番 送料書留金拾八錢

小白妖乱舞

松原東吉作

ハテ 不審！ 若しや、と言葉をかけたやうとした新那。人の近づく氣配を覺つてか、パト、煙の如く、その體でやかな委は、掻き消へた。 それから、

この夜更けて、 どの夜更けて、 どの夜更けて、 どの夜更けて、 どの夜更けて、 どの夜更けて、 どの夜更けて、 どの夜更けて、 どの夜更けて、 どの夜更けて、

今日に學び、明日に活躍せんとするものは、必ずや、又、昨日に就て知らざるべからずである。 言ふまでもなく、昨日あつての今日であり、今日あつての明日であるからである。

眞宗皇帝日 家を富ますに良田を買ふことを用ひず、書中自ら千餘の粟あり居を安するに高堂を築するを用ひず、書中自ら黄金の屋あり門を出づるに人の踏ふなきを恨む莫かれ、書中車馬多きこと嫉む莫かれ、書中良妻なきを恨む莫かれ、書中女あり顔玉の如し、男兒平生の志を遂げんと欲せば、六經つとめて感前に向つて讀むべし

大日信條 不動經講義 正價金六十錢 九字護身法 正價金五十錢 般若經並略解 正價金三十錢 在家勤行集 正價金三十錢 朝夕勤行集 正價金二十五錢 日課要經集 正價金二十五錢 六座念佛式 正價金二十五錢 ぼこりたゝき 正價金二十五錢 掌中不動經 正價金二十錢 掌中般若經 正價金二十錢

大日新聞社 振替口座福岡五六〇〇番 送料書留金拾八錢

秋夜茶話

雁に絡まる因果話

昔、三河國足助村に久右衛門といふ百姓があつた。當日頃弓術を好み、裏の蔵に巻籠を備へつけて毎日弓の稽古をしてゐたが、ある日のこと急用が出来て弓の弦も外さずに、そのまゝ外出してしまつた。するとその時へ半吉といふ當家の召使がやつて来て面白半分

双葉園主催 童謡舞踊大會 十月二十七日 演劇場にて 開けゆく秋の演劇を彩る双葉園主催の「童謡舞踊大會」は十月二十七日午後六時から演劇場演劇劇場で開催された。全町を挙げて異常な期待と興味とで待ち望まれてゐたので、定刻前、既に文字通り立錫の餘地なき盛況、紅白紫黄色とりんに装飾されたステーチは、見るからに音楽の殿堂そのものであつた。

看病に、枕もとへ座つてゐた、村の人達は、ソツと、背に、冷水を浴びせられた心地。誰、ひとりのいふものもなく、薄暗い灯の影に、寄り添ふて、唯おののく體を、すばめて、顔見合せてゐるばかりであつた。

奔放な變遷が、變遷至上主義などいふ旗印の下に、いとも高調した爲め、日本固有の夫婦道徳は徹底的に顛覆した。見よや、往年有夫の婦人が、その老ひたる夫君に離縁状を叩きつけて、若ひ愛人の懐に奔つた事件や、近頃は、世間に比較的著聞されてゐる或る人々の間に起つた十五娘を持つ妻を譲渡した事件など、これを兩巻の出来事としたならば、世間は、完膚なきまでに、非難攻撃するであらうに、幸ひにして、社會の上層にあり、或る業態で世人に知れてゐる人々であるが故に、表面に現はれた社會の批判は、さほど痛くはない。のみならず中には、肯定するやうな口物をもつ追従者もゐる。これらの批判は、畢竟それを發表するに、特別の便宜を有する人

今日に學び、明日に活躍せんとするものは、必ずや、又、昨日に就て知らざるべからずである。 言ふまでもなく、昨日あつての今日であり、今日あつての明日であるからである。

眞宗皇帝日 家を富ますに良田を買ふことを用ひず、書中自ら千餘の粟あり居を安するに高堂を築するを用ひず、書中自ら黄金の屋あり門を出づるに人の踏ふなきを恨む莫かれ、書中車馬多きこと嫉む莫かれ、書中良妻なきを恨む莫かれ、書中女あり顔玉の如し、男兒平生の志を遂げんと欲せば、六經つとめて感前に向つて讀むべし

大日信條 不動經講義 正價金六十錢 九字護身法 正價金五十錢 般若經並略解 正價金三十錢 在家勤行集 正價金三十錢 朝夕勤行集 正價金二十五錢 日課要經集 正價金二十五錢 六座念佛式 正價金二十五錢 ぼこりたゝき 正價金二十五錢 掌中不動經 正價金二十錢 掌中般若經 正價金二十錢

大日新聞社 振替口座福岡五六〇〇番 送料書留金拾八錢

大日子所信

佛は人心の作物にして人心の威力は佛に依りて顯はされてをる、其絶大無限を顯はしたるものが即ち法華經の普門品なりと信する、普門品の奇蹟を精神界にのみ解譯するもの多きも余は現實に顯はし得らるべきものと確信する

大日子所信

佛は人心の作物にして人心の威力は佛に依りて顯はされてをる、其絶大無限を顯はしたるものが即ち法華經の普門品なりと信する、普門品の奇蹟を精神界にのみ解譯するもの多きも余は現實に顯はし得らるべきものと確信する

大日子所信

佛は人心の作物にして人心の威力は佛に依りて顯はされてをる、其絶大無限を顯はしたるものが即ち法華經の普門品なりと信する、普門品の奇蹟を精神界にのみ解譯するもの多きも余は現實に顯はし得らるべきものと確信する